

# 鉄鋼新経営

# 描き挑む成長のビジョン

2024年4月期決算をどのように評価しているか。

になり、赤字に転落した。素形材関連の受注が少なく、生産・販売量

# 日本鑄造社長



# 鳥尾筋式

市に製造拠点を置き、業とでOEM契約を結し、鋳造品を購入する。当社で品質管理・保証を行い、需要に出荷している。川スマートファクト化に向けて進めて、自動押し湯切断ットに加えて、24ヶ月に溶接補修口ボルトを新設した。自動湯切断口ボルトは、たがたが

市に製造拠点を置き、製造業と OEM 契約を結し、鋳造品を購入する。当社で品質管理・保証を行い、需要出荷している。川スマートファクト化に向けて進めて、自動押し湯切断棒「マイティバー」など、の鋳鉄品を生産する福山製造所はどうか。

——鋳鉄水平連続铸造  
「マイティバー」など、の鋳鉄品を生産する福山  
製造所はどうか。

「24年4月に10トン高周波誘導電気炉を導入した。これまで低周波誘導電気炉2基を設置していたが、両炉とともに稼働率が低く、間欠操業が続いたが、両炉とともに稼働率が好調なため、同様に米国で米国でサン

市場に本道プロセスにおける効果ガス(GHG)をゼロとした铸造「EENCAST」S(グリーンキャシングス)」の状況

本格参入する。L  
ーズの今期売上  
期並みを見込む。  
ンキャスティング  
用実績が増えるよ  
ヒールを強める。  
製造するカーボン  
の铸造品販売量に  
日本海事協会か  
者認証を取得して  
3D積層造形製  
造の铸造品につい  
証取得を計画す

に組み込んで鋳造品と一体化させる。用いる金属粉は水アトマイズ法で製造し、普通鋼に近い成分为800kg/m<sup>3</sup>の鋳造品に対して、1%前後の重量になる。実用化後、3D積層造形装置がフル稼働になり、24年4月に1台増設し、2台体制としたが、さらなる増設も検討する」

は26年度でのCN実現を  
2年前倒しで達成する

る。パソコンやタブレット端末からアウトプット印刷するなどの紙の使用量が前年比で9割減っており、地球環境保護や資源有効活用の観点から、最終的には完全ペーパーレス化にしていきたい」

グリ  
着々化トマートスマート新設ボボ

ラント氏の大統領の市場に与えが不透明であるを注視したい』川崎工場の取り。年10月に池上工業を休止し、川に機能を移管し要家の品質認証程度取得済み嶺工場と中国・新す

品種を拡大し、現時6割程度をカバーし、最終的には全て種に適用したい。溶修口ボットは戦力化つあり、半導体製造向け鍛鋼品に係る欠修に適用しており、生産性改善に寄っている。今後は砂型設備のミキサーを更る。大型ミキサーを

新設した高周波溶射して連続操業にえたことで溶解効率にアップし、短幅の铸造が可能になら性が高まってい崎で取り入れていて解析を横展開し、アウト最適化なる

採用数量が増えて  
後の受注増に期  
する。また、LE  
イズの熱膨張ゼロ  
EX-ZERO  
(ス・ゼロ)』を用  
積層造形製品が  
プロジェクトに  
れた。宇宙観測衛  
星はさらに高ま  
りがあり、今回  
機に航空宇宙分野

「新しい鋳造方法を開発した。」  
「3D積層造形技術を活用し、铸包み材に3D積層造形製品を用いる新しい铸造方法を開発した。24年9月に国内特許を取得済みで、すでに実用化しており、従来の方法に比べて作業時間が半減し、効果を發揮している。铸造する前にシミュレーションツールで湯流

ラル(CN)実現に向けての進捗状況を。

期発見などの効果を得ており、造型、機械加工の各工程にも順次導入する

開発した「3D」活用し、積層造形新しい铸造法に比べて用化して法に比べて用化して積層造形を取得溶接された。24年た。24年た。  
レーシヨン解析や欠陥がある箇所による組み込み形化させ粉は水アラ化し、普で、80量になろD積層造工になり効率化して台増設討する」

積層造形技術を  
各部材に3D  
方法を開発し  
で、すでに実  
り、従来の方  
と作業時間が半  
分を發揮してい  
る前にシミュ  
レートで湯流  
凝固解析を行う  
が生じる可能性  
に3D積層造  
型包み材を鋳型  
で鋳造品と一  
致する。用いる金属  
はマイズ法で製  
造鋼に近い成分  
のきらの鋳造品  
1%前後の重  
実用化後、3  
台体制とし  
る増設も検

フル(CN)実現への進捗状況を。「24年度末にはCNを実現する目標北陸電力からCO<sub>2</sub>量ゼロとなる再生エネルギー由来の非売書を使用した電力としていたが、24年は東京ガスから同社が使ったガス購入をおり、CO<sub>2</sub>排出量賃ゼロになった。のCO<sub>2</sub>排出量削減について、30年度比70%削減13年度までにCN化をていたが、川崎には26年度でのCN2年前倒しで達成——DX(デジタル・フォーム)やI.O.T(インターネット)を活用は。

期発見各工程、  
現に向け  
は川崎で  
免通し。  
O<sub>2</sub>排出  
生可能工  
界化石証  
力を購入  
年7月に  
向証書を  
を始めて  
山量が実  
現中計  
削減目標  
度までに  
をを目指  
減、50年  
において  
N実現を  
タルト  
シヨ  
モノのイ  
導入・  
ス化に  
最終的  
源有效  
量が前  
ト端末  
印刷す  
る。パ  
ー一  
の業務  
ことで  
周辺に  
ク、レ  
 활용し  
などに  
る。本  
して、  
周辺で  
る。

など効果を得て、造型、機械加工の技術にも順次導入する。**職場環境の改善は**き方改革の一環と25年4月に横浜駅新事務所を開設する社スタッフは予定に応じてテレワーカー専用オフィスを設けているが、横浜駅オフィスを構える外勤者や出張者利便性などを高め方、社内文書のペレス化を進めていソコンやタブレットからアウトプットするなどの紙の使用率比で9割減って地球環境保護や資源活用の観点から、には完全ペーパーレとしていきたい」